

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二二七二〇七

いま死力尽いて決起すれば、活路は

必ず開かれる — 国労中央の優柔不断・無方針、屈服・敗北路線は、現場組合員の苦闘を踏みにじるものだ！

八月一日、午後十一時すぎ、国電秋葉原駅で国労東京地本新橋支部東京給電管理本局分会の分会長 南雲貢氏が自から生命を断った。南雲氏を殺したのは、理不尽きわまりない国鉄分割・民営化攻撃であり、それをおしすすめる中曽根・橋本・杉浦と松崎であり、そして優柔不断・無方針のもとで、組合員を敵の攻撃にさらしている国労中央、総評である。こんな連中に殺されていいのか。虫ケラのように！ いまほど全身を怒りにふるわせ、血を流してでも起ちあがるときは、いまをおいてない！ いまこそ死力を尽くして総決起せよ！

労働者の屍体のうえに、国鉄分割・民営化を推進する当局

国鉄当局は、労働者を死においづめておきながら、こともあろうに「思いあたるフシはない」とシラを切っている。いい加減にしろ！

中曽根や三塚、亀井らは「去るも地獄残るも地獄にしなければ国鉄改革などできない」とことあるごとに口にしてきた。ことし二月に、東鉄南局では次の文書が各現場長に指示された。

「今後、職員の自殺者が発生した場合、その都度『別紙』様式によりすみやかに報告せよ」と記された「職員自殺の報告方について」との「自殺報告書」が国鉄本社の指示によって作成されたのである。

現実に国鉄労働者の「自殺」は国鉄当局の公表でも昨年一年間で四五人、今年に入ってから、すでに十六人が尊い生命を断っている。にもかかわらず「自殺報告書」は、労働者を「自殺に追いこむ分割・民営化や、不当な職場支配の攻撃をこれからも続けていくのだ」ということを示している。国鉄を地獄と化し、労働者の屍体のうえに分割・民営化をやるうというのだ。

全人格・全人生を破壊する攻撃

南雲氏の職場・分会に対して国鉄当局

は魔手を伸ばし、国労分裂工作を行っていたことは明白だ。そして、自殺、事態はここまできているのだ。

国労大会は後戻りのできない正念場中の正念場に「大胆な妥協」方針をうちだし国労をさらに重大な危機に落しこんだ。この屈服方針で国労組合員の雇用と国労組織が守れるわけがない。

中曽根・橋本・杉浦・松崎らは国労解体を唯一の目的に攻撃をかけてきている。鉄労にゴマをすり、総裁 杉浦に頭を下げ、運輸大臣 三塚に大会出席要請したり、自民・民社を選挙で支持したり、あげくに総評脱退 解体に手を染めようとしている動労革マル 松崎の姿を見よ。国労が、国労組合員が松崎のような卑劣で醜悪なやり方をどうしてできようか。

死ぬ気で決起し、活路を開こう！

動労千葉は何度でもいう。もはや中間の道はいっさいないのだ。国労組合員は闘う方針を、ハラのすわった方針を待ち望んでいる。「座して死を待つより、起って闘おう」を死語にさせることは国労の死へとつながる。血を流してでも闘おう。死力を尽して闘おう。でなければ六十数名の、そして南雲氏の死はムダになってしまう。十六万国労組合員は南雲氏の無念を晴らさなければならぬ。労働組合として。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

南雲分会長のこの無念必ず晴らそう。

61名の仲間を虐殺した中曽根-杉浦-松崎=分割民営化を絶対に許さぬ

なぐも (国労・東京給電管理局本局分会)

こんな非道を許せるか!

中曽根・杉浦・松崎らによる虐殺だ!

国労分会長が自殺

秋葉原駅 ホーム走り飛び込む

一日午後十一時十五分ごろ、東京千代田区外神田の国電秋葉原駅三番ホームで、山手線外回り電車(十両編成)に突然若い男が飛び込んだ。電車は急ブレーキをかけたが間に合わず、男の人は頭を骨折するなどして間もなく死亡した。

万世橋警署調べによると、この男の人は品川区広町二の一九、国鉄アルバイト、国鉄東京給電管理局総務課員、南雲さん(仮名)とわかった。調べによると、南雲さんは国労東京地本新橋支部東京給電管理本局分会の分会長。この日は午後五時半まで秋葉原駅構内の職場に勤務していた。深夜でホームにはほとんど人がいなかった。運転士の話によると、南雲さんはホームの中央付近から小走りに線路へ駆け寄り、そのまま飛び込んでおり、同署は自殺とみている。遺書はなく、家族や同僚も自殺の心当たりはないと話しており、同署で自殺の動機を調べている。

七月十四日には国労四国地方本部書記長、高松市浜ノ町の国鉄宿舎で手を切つて自殺を図り、六カ月の重傷を負っている。

当局から脱退 勧告に悩む?

国鉄は昨年四月の分割・民営化に向け厳しい合理化を進めているが、十一月一日のダイヤ改正に合わせて二万五千人を合理化する方針で、南雲さんの所属する東京給電管理局では四百二十六人の職員のうちほぼ一割の四十人が余剰人員として「日付で一人削減用センター」に送られた。関係者によると、南雲さん

はこの日午後五時半から、局内の会議室で開かれた懇談会に出席。会が終わった同六時半過ぎから姿が見えなくなっていた。

国労本部の話では、同分会は二十五人いるが、一カ月は前から係長を動員した国労脱退工作が進み、これまでに八人が脱退、南雲さんにも当局側から脱退の誘いがあったらしく、分割工作への対応に悩み「自殺したい」ともいっていたという。

南雲さんは高卒後、五十五年に入社、すぐに同局に配属

どんなに厳しくとも、どんなに口惜しくとも、**国鉄労働者は絶対に死んではいけない!**

死すべきは、中曽根・杉浦・松崎の方だ!

起って反撃するのだ! 生きるために!

「大胆な妥協」「中岡一任」なる屈服・敗北路線をのりこえて、全国津々浦々から実力決起かちとろう!

非情突つ走る分割・民営化路線

出向、退職強要など職場深刻

国鉄自殺多発で報告書

1年余で43人…異常事態に

昭和 年 月 日

原 生 課 長 殿

職員の自殺報告書

1 職名 _____ 2 職名 _____

3 氏名 _____ 4 氏名 _____

5 就任 昭和 年 月 日 6 現職経年 _____

7 死亡日時 昭和 年 月 日 _____

8 死亡場所 _____

国鉄当局が現場に出した「職員自殺の報告書」について「上層部報告書」

職員自殺の報告書について

…未然に防止するなど、精神衛生の保持向上を図るため、

…労務管理の一環としてとらえ、その対

「国鉄当局は、労働者を殺してあたり前だ」とうそを言っている。とりわけ「遺書の発見」その内容の把握を迅速に「(一)都合の悪いことはすぐかくせ」と指導している。

国鉄 分割・民営化の嵐のなか...

呼び出し直後に自殺

仕事一筋の出札係
ロッカーに「退職強要反対」

岡山では休職の労働者

され、今年三月から国労分会長を務めていた。同僚の話では南雲さんは内向的だが、実直な人柄だったという。家族は妻と長男の三人暮らし。

すでに61名もの仲間が殺されていった。この恨み、必ずはらすぞ!